

富山県総合計画審議会 第1回新川地域委員会

1 日時 平成29年7月21日(金) 15:00~17:00

2 場所 ホテルアクア黒部 2階 ロイヤルシンフォニー

3 出席委員(五十音順)

吉田委員長、大愛副委員長、川端副委員長、堀内副委員長、村椿副委員長、伊東委員、大井委員、大橋委員、岡田委員、扇原委員、笹島委員(オブザーバー出席:梅津副町長)、笹原委員、千田委員、高本委員、中西委員、松井委員、松野委員、水白委員、宮本委員、村井委員、渡辺委員

4 議事

- (1) 新総合計画の骨子案について
- (2) 地域別の特性と取組みについて

5 発言要旨

(1) 知事挨拶 石井知事

- ・ 本日、富山県総合計画審議会の第1回目の新川地域委員会を開催しましたところ、委員の皆さまには大変お暑い中、またご多用の中、こうしてご出席賜りまして、誠にありがとうございます。吉田委員長さんをはじめ、村椿市長、堀内市長、また経済界や各界のそうそうたる皆さんにお集まりいただき、感謝を申し上げます。
- ・ 最初にお礼を申し上げなければいけません。去る5月28日に魚津の桃山運動公園をメイン開催地として、全国植樹祭を開催させていただきました。新川地域の皆さまには、本当に各地域で天皇、皇后両陛下を大変温かくお迎えいただき、大変感謝申し上げますと思います。天候に恵まれて、両陛下も新川地域をはじめ、富山県に大変いい思いを持ってお帰りになったのではないかと考えております。
- ・ さて、本県では平成24年4月に、総合計画である「新・元気とやま創造計画」を策定させていただきました。これまで5年半ほどたちました。「活力・未来・安心」と「人づくり」を重点政策としてやってきたわけです。ただ、新幹線が開業してから2年4カ月余りたちましたし、計画策定からも5年半余りということで、県内各地で、5年半前に計画を作ったときにある程度見込んでいましたが、それを上回る良い面での効果も出ています。また、少子高齢化が進んで人口減少が本格化するという課題の方も増えてきていると思っています。
- ・ しかし、日本全国を見渡しますと、日本の地方の中では富山県はむしろ随分元気な方だと言ってくれる人が多いと思っています。皆さんも感じていらっしゃるように、北陸新幹線の開業効果を何とか一時的なものに終わらせないで、しっかり持続させて、さらに深化させる。併せて、国の地方創生戦略もうまく活かして、富山県、また新川地域の新しい未来をつくっていきたいと思っています。
- ・ 今度の総合計画は、かねて作ったときから「5年ぐらいたったら、また見直しをし

ます」と申し上げておりました。また、吉田委員長さんは「中長期の計画といっても、民間では大体5年が常識ですよ」というのがかねてからのご持論です。ちょうど見直すいい時期ではないかと思っています。

- ・ 昨年12月に1回目の審議会を開催して、活力、未来、安心、総合の四つの部会と、さらに今回は30歳代の若い人に入ってもらって青年委員会をつくり、熱心に議論いただいて、去る5月に新たな総合計画の骨子案をまとめさせていただきました。それをできるだけ地域ごとの特性や課題などを反映した内容にしたいということで、この総合部会の下に、新たに新川・富山・県西部の各地域の首長さんや各分野の代表者の方からなる三つの地域委員会をつくって、ご審議いただくということです。
- ・ 今日の新川地区での第1回の会議が、この三つの地域委員会の中でも最初の地域委員会です。今日は皆さん、非常にご見識の高い方、経験豊富な方々ばかりです。この後、事務局からこれまでのご議論を踏まえて取りまとめた骨子案、それから今までの「新・元気とやま創造計画」の地域計画なども参考に見ていただきながら、ご議論を頂きたいと思います。
- ・ この後、パブリックコメントやタウンミーティングなども行い、幅広く県民の皆さんのご意見を頂いて、来年の1、2月ぐらいには取りまとめたいと思います。この地域委員会については、今日のご議論と、もう一度11月ごろにやることにしていますので、どうかひとつよろしくお願ひしたいと思います。

(2) 委員長及び副委員長の指名

- ・ 富山県総合計画審議会運営規程第6条第1項により、総合計画審議会の永原会長から、本委員会の委員長に吉田委員、副委員長には村椿委員、堀内委員、大愛委員、川端委員が指名された旨の報告があった。

(3) 委員長挨拶

【吉田委員長】

- ・ 新川地域委員会の委員長を務めさせていただくことになりました吉田です。よろしくお願ひいたします。いきなり大役を仰せ付かったので、うまくまとめられるかどうか分かりませんが、全て皆さまのご発言にかかっていると思っていますので、よろしくお願ひしたいと思います。

これから審議を行っていく新しい総合計画は、今ほど知事からもお話がありましたとおり、大変変化が大きい時代の中にあって、ここまで変化してきたけれども、さらにこの変化の中で重要なポイントをあぶり出して、県政の中に入れていただくことだと思っていますので、ぜひ闊達なご意見を頂ければありがたいと思います。

本日はここに、新川地域において中心的な役割を果たしている方々にお集まりいただいています。委員の皆さま方の活動、経験を踏まえて、自由闊達なご議論を頂きまして、少し激し過ぎるくらいの議論の方が私は好きなのですが、ぜひそんなふうと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思います。短い時間ですので、片方では短い時間の中で押し込めるようにご協力いただかなければいけないと思いますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

(4) 資料説明

＜事務局より資料5～8を説明＞ 省略

(5) 意見交換

【吉田委員長】

- ・ 今の事務局からの説明に関して何かご質問があればお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。大変スピーディーに包括的な説明があったので、そう簡単に質問といっても出てこないとは思いますが、いかがでしょうか。

【笹原委員】

- ・ 計画そのものの構成、方向性については特に異論はないわけですが、今後10年間を見据えた計画とするためには、現在、県が進めようとしている県立高校の後期再編問題について言及せざるを得ないと思っています。県立高校再編の行方によっては、新川地区として取り組むべき課題、方向性は変わってくると思っています。この総合計画における新川地域2市2町と、高校再編にかかる新川学区とは構成市町が異なるとはいえ、仮に高校の統廃合等の再編が新川地域内で実施されれば、さまざまな面での地域の活力・未来・安心・人づくりに多大な影響を与えることになると思います。

そういった中で、新総合計画の骨子案27ページの第3章Ⅰの6「教育」、同じく第3章のⅡの1「子どもの健全育成」の中では、少人数教育の推進等の言及も記載されているほか、骨子案（基本計画編）の「未来」の展開目標2の6「少人数指導と少人数学級の組合せ等による充実した教育の推進」の中では、取組みの基本方向の一つとして「地方創生の観点等も十分勘案しつつ、中長期的な視点に立った、県立高校の教育のあり方についての適切かつ丁寧な検討」といった記載もあります。

今回、県の総合計画審議会の地域委員会に属する一首長として、地域の特性と課題を議論していく上で、連携中枢都市圏、広域連携などさまざまな課題、論点もありますが、県立高校再編が与える影響の大きさというものを念頭に置くべきであると申し添えておきたいと思っています。

【石井知事】

- ・ 高校再編は今まさに重要な問題ですから、特別に今、県教育委員会の方で学区ごとに説明会を開いています。また、特にご要望があった朝日町については、それとは別に説明会を行っています。いろいろなご意見を頂き、先般そういったご意見を踏まえた総合教育会議で、ある程度論点整理も済みましたから、この7～8月にかけて、そういった結果をまた学区ごとに説明することにしていきます。その辺の議論を踏まえて、総合計画にそれを何らかの形で反映させるのかどうかというのは、議論の帰趨を見極めながら検討していきたいと思っています。

【笹原委員】

- ・ 高校の再編に関しては、この場でなぜこういった質問かということ、もちろん新川地区

の課題であるのですが、7月3日からの意見交換会で浮き彫りになった点として、県教育委員会サイドでは、総合政策局が地方創生の観点から見てしっかりと議論しているということでもありますので、この場ではそういったことは欠かせない議論の課題であろうということでも申し述べたということが1点ありますので、ご理解を賜りたいと思っています。

- そして、併せながら、意見交換会といえども、本当に真摯な意見交換の場になっているのかという疑問も、知事がおいでになるから申し述べておきたいところでもあります。今日も朝、来る前に新川学区は8月2日となっていますが、やはりお互いに新川地区の首長の皆さんもタイトな時間の中でもう少しそういった日程調整も考慮して、一方的に意見交換の場を設けてやるのではなくて、やはり真摯に地域の実情もくみ取った連携を伴いながら、そういった場を設けていただきたいということも、併せてお願い申し上げます。

【吉田委員長】

- 今の笹原委員の意見をぜひきちんと受け止めていただきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。他に質問はございますか。他に質問がなければ、意見交換に移りたいと思います。
- 今回の会議で頂きたいご意見としては、資料7に記載しておりますが、「地域の特性と課題」という点について、さらに付け加えて盛り込むべきものはないかという点と、地域の特性等を踏まえて今後10年間に県として取り組むべき政策としては、どういったものがあるのかという新しい点も含めてご意見を頂ければと思います。ご発言ごさいますでしょうか。

ご発言がないようですので、こちらから少しずつ指名させていただきたいと思いますが、よろしいですか。恐縮ですが、大愛さん。よろしくをお願いします。

【大愛副委員長】

- 私も今年初めて、にいかわ観光圏協議会に出させていただいて、黒部市、魚津市、入善町、朝日町の2市2町で連携しながら、広域観光を進めていらっしゃるということで、これは非常にいいことだと思っています。一つの町、市で観光が完結するような時代ではありませんので、広範囲にわたってそれぞれの町や市の特徴を活かして、観光していただく。そしてまた、そこにそれぞれの町のブランド商品があり、それを買っていただく努力を非常にされていると思っています。

こういったものをもっともっと発展的にやるためには、どのようなことをしていったらいいのか、これから話を進めていくところですが、10年後の取り組むべき政策という点においてどのように取り組んでいったらいいのか、少しアドバイスを頂ければと思っています。

【川端副委員長】

- 商工会議所の立場といいますか、そういう部分で一つお願いがあります。新川地区に限らず、どの地区もかもしれませんが、やはり商業の衰退が著しく表れているのではな

いかと思います。昔の商店街という概念はもうなくなりつつあります。一方、高齢者が増えてきて、買い物難民的な問題も出てきています。実際、まちなかにお店がなくなってしまい、しかも交通手段もなくてなかなか買い物にも行けないという方が、これからますます増えてくるのではないかと思います。商店街を復活させるのは、まずこれからは無理だと思っていますので、そういう形を何か違う切り口で解決するような方法があれば、ぜひ県の方でも力を貸していただければと思います。

いろいろ考えてはいるのですが、なかなか妙案が浮かばないのが現実です。特に私は黒部ですが、本当に黒部のまちなかで買い物をするというのは、地域によっては非常に難しい状況になりつつあるのが現実だと思っています。会議所の会員の増減を見ても、やはり後継者がいなくて廃業される主に商店の方々が多いわけで、そういう対策をぜひ県の方でも考えていただければと思います。よろしく申し上げます。

【大井委員】

- ・ 冒頭に「健康寿命」という言葉が出てきましたが、「安心とやま」の中に「いのちを守る医療の充実と健康寿命日本一」と掲げてあります。健全な企業経営を持続していくためには、経営者それから家族、従業員が健康であることが極めて重要です。富山県の健康寿命は、男性が71歳、女性が75歳といわれています。健康推進、医療費の正常化に対しまして、事業所に健診の受診等と呼びかけや保健師の派遣等を実施するために、商工会としましては企業の健康づくり推進に向けた相互連携協定を全国健保協会富山支部と朝日町商工会、それから入善も入っていますが、昨年平成28年11月21日に締結しました。県としまして、全体的に健康寿命の推進に対して何か政策があれば進めたいと思っています。また、具体的なことがあればお教えいただきたいと思っています。よろしく申し上げます。

【扇原委員】

- ・ 中小・小規模企業への支援ということで、資料にありますように、良質で豊富な水資源により、新川地域には多彩なものづくり企業が立地しています。国では民主党政権時に一時途切れた「革新的なものづくり・商業・サービス開発支援補助金」で新たなものづくりに取り組む中小・小規模企業を支援していますが、補正予算のみの対応であり、年間を通じた支援ができていません。加えて、富山県のものづくり企業を側面的に支援する研究機関等の施設の多くは、県西部に立地しています。このことが直接的な要因とは言いませんが、中小企業施設の活用が西高東低となっている現実を踏まえ、県東部においても中小・小規模企業が試作品等を製作する上で必要となる工作機械などの設置が望まれます。
- ・ また、中心商店街の活性化と事業承継ですが、昨年、県商業まちづくり課による第1回の商店ツアーの視察地に入善町を選んでいただきました。また、今年は商店街のプロフェッショナル体験モデル事業も入善町で実施してもらえることになっています。大変感謝していますが、中心市街地における事業承継は喫緊の課題となっています。事業をつなぐ視点の企業からの説明によると、他県では就業体験から事業承継につながった成功事例をお聞きしています。関東圏で働く皆さんが入善町で就業体験を行うことで事業

承継につながることを期待していますが、単年度ではなかなか成果が出にくいと思いますので、事業承継と UI ターンを実現する取組みの継続的な実施をお願いします。

- また、基幹産業である農業の経営力向上についてですが、入善町の基幹産業は農業です。単に米、大豆、麦という農作物を栽培するだけではなく、米からおにぎり、弁当と付加価値を付けることが収益の増加につながるどころです。聞くところによりますと、県の農商工連携のファンド事業は、本年が最終年度だそうです。農商工連携は農業の経営力を向上させるだけでなく、商工業者に新たなビジネスの芽を生むものであり、産業として裾野が広がることが期待できます。農業の工業化はこれから AI の普及で格段のスピードで進んでいきますが、収穫される農作物を単なる素材として市場に投入するだけではなく、完成品として家庭に届ける取組みが欠かせません。どうか県ファンド事業のような支援策の継続をお願いします。どうかよろしく願いいたします。

【伊東委員】

- アイティオの伊東と申します。製造業をやらせていただいています。扇原さんからもお話があったとおりに思います。工業技術センターはやはり県西部にありまして、それで活用できないということは、中小企業の中では非常に強く思っていることです。それで、特にそうなのですが、いろいろな支援を頂いて設備を導入させていただく中で、どうしても中小企業は稼働率の高いものを導入してしまう傾向があります。要するに、非常に稼働率の低いものはなかなか中小企業の力では買えません。例えば検査をする装置や開発に関するようなものは、中小企業という立場からすると非常に買いづらい。そういう点からすると、そういうものを使えるような環境が新川地区に全くないことを、これから先の中小企業の成長の中でぜひ考えていただきたいということが1点目です。
- それから次は、人材の確保がこれからいろいろと問題になってくると思います。今年の景気の動向や人材の動向からすると、やはりなかなか中小企業に優秀な人材、それから本当に優秀な人材でなくても、人材が全く来ないという状況が続いています。そういう中で、まず最初に何かというと、富山にいるうちに富山を好きになるような教育が何かできないか。そういう施策があってもいいと思います。例えば、中学生あたりで富山のいろいろな企業を知ってもらったり、今は14歳の挑戦やインターンシップというものがありますが、本当にごく一部の企業を知っていただくのではなくて、もっともっといろいろなことを知っていただくということが一つです。
- それともう一つは、吉田会長の YKK さんなどもそうだと思いますが、県外から人材をいろいろ持ってきていただいているのは非常にありがたいお話だと思うのですが、今度はその家族や子どもたちを連れてきたいと思う教育環境を新川地区にどうやって整えていくのかということ、10年後を考えて何かやっていただければ、人材の確保ももう少しやりやすくなってくると思います。

【大橋委員】

- 私からは観光とエネルギーの2点について意見を述べたいと思います。新川地域において、富山県最大の温泉観光地である宇奈月温泉がありますが、冬期間における入込客数がシーズンに比べて減少しているという課題があります。では、冬の期間にこの地域

に魅力がないかという点、決してそうではないと思っています。冬の時期に宇奈月ダム湖まで、東京から来られた大学の先生をお連れしたところ、ものすごく感動されたのです。「こんなすごい所が日本にあったのか。水墨画の世界で素晴らしい」とおっしゃっていただきました。やはりまだまだ地域にある資源が十分に活用されていない、もっとブラッシュアップしていくことが大事だと思っています。県の方では、いろいろな方を招いて、大胆な観光の戦略を立てておられます。そういったことで、この富山県にある地域資源を活かして、世界中から観光客をお呼びすることができるのではないかと考えています。

- 今は国内の需要より、やはり観光客はインバウンドのお客さまが多いわけですが、われわれも海外に行ったときに困るのは観光案内です。かつてはピクトグラムといって、文字ではなくて絵などの図柄で示していましたが、ICTが進んできましたので、スマホでいろいろなものが簡単に分かるように、そういったことを整えていくことが大事だと思います。
- また、ヨーロッパなどでは公共交通を使っていろいろな所を巡ることができます。それも、富山県がまだ不十分だと思うのは、連結が悪いのです。鉄道を使って行き、そこから今度はバスに移るときに、すごく時間が空いたりします。そのようなところでまだまだ改善する必要があると思っています。ハードもそうですが、ソフト面でもさらにブラッシュアップしていくことが大事ではないかと考えています。
- それから、エネルギーについてです。富山県は包蔵水力が日本で2番目で、県の単位面積当たりで割ると断トツにあります。そして、地熱エネルギーについても2番目です。こういったものを活用していくことが大事です。既に県や自治体で取り組まれています。いろいろな技術の進展があって、もっと小規模なものなどがさらに進められることが可能であると思っています。再生可能エネルギーを単なる売電でもって効果を得るのではなく、これから研究によっては、発電したものを水素エネルギーに変えて蓄えておくことができたり、あるいは生活の質を高める。環境にやさしい生活に憧れている都会の方々もたくさんいらっしゃるわけです。去年、経産省で「まちエネ大学」というものを宇奈月で開催しましたが、全国から集ってきて「こういったアイデアで地域を良くしたい」というアイデアをたくさん頂きました。本当に再生可能エネルギーとしての資源が豊富な所ですから、そういったものを磨いていって、日本最先端ではなく、世界最先端のそういった地域になり得ると思っていますので、こういったところにも焦点を当てて取り組んでいただければと思います。

【岡田委員】

- 私が思ったのは、必ずしも本当に地域の特色に根差していなくてもいいのではないかと。例えば自分が住んでいるのは入善町ですが、うちには4人の子どもがいます。他の地域にも知られていますが、入善町では子どもが多い家庭には手厚い補助金などがあります。はっきりいって他の地域と比べて、入善町で子どもを産みたい若者が多いのです。そのように、必ずしも土地の産物であることに根差していなくても、地域の特性になり得ると私は考えます。県でリソースは限られていると思いますが、その傾斜の配分を変えることによって、例えば新川地区で会社を興しやすいか、新川地域に3Dプリンターの

出力センターがあって物の試作品が作りやすかったり、産業においてもリソースの配分によって、必ずしも地形や産物と組み合わせた特色を活かさなくても、魅力あるまちづくりはできるような気がしています。できれば、そういうリソースの配分によって特色付けがあってもいいような気がします。

【千田委員】

- ・ 今回、基本の取組みを改めて拝見し、活力・未来・安心という理念に掲げられた骨子案と、それを支える重要政策の人づくりは、本当に分かりやすかったと思います。この中にも書いてありましたが、石井知事はこの12年間で財政健全化に努められ、成果も出されたことは行政改革として素晴らしい貢献だったと、この場を借りまして県民の一人としてお礼を申し上げたいと思っていました。

- ・ 地域の特性と課題についてですが、将来、少子化が加速する中で、新川地域の活力も失われると予想されるわけですが、女性のUターン移住の促進につきまして、女性対策も考えていただければと思います。私も所属している富山経済同友会で女性キャリア採用宣言をして、そういう提言もさせていただきました。その中で、進学して就職するとき、富山では就職したくないという回答が60%あり、比較的多かったのですが、それでも40%ぐらいの方が何らかのタイミングでUターンを考えています。アンケートでは「親がいるから帰る」というのが78%、「生まれ育った町で暮らしたい」というのが56%、「友人・知人がいるから」というのが41%という回答でした。このようにいろいろなアンケートを取ってみると、条件がそろえばUターンをすることが分かりました。女性だけに絞ると、配偶者の理解や転勤、結婚、出産、相手があればこちらに帰ってきたいという回答も出ました。

それから、企業における女性活躍のメリットは、意外と企業の業績にもプラスの影響があると示されていることが分かりました。企業の成長にとって、改めて女性の知恵や活力が必要ですし、今後の新川地域社会の発展にもつながりますので、アピールをいろいろしていただきたいと思っています。その中の取組みで、例えば、Uターン奨励金の設立や、キャリア・能力を活かせる職場づくり、働く女性を支援する制度など、今もやっています。そうしたことの早めの対応というか、いろいろな組み立てをやっていただければうれしいと思っています。

- ・ 最後になりますが、先ほど大愛会頭もおっしゃっていましたが、やはり新川地域の連携が大事ではないかと思っています。そういう意味でも、先月から新聞などを取っていますが、人材育成ということで魚津市と荒井学園と富山大学で、新川創生プロジェクトという、地域を考える若者育成という連携の記事が出ていました。

それから、うれしかったのは、YKKさんの話なのですが、創業者の功績紹介で、これから統合小学校が建ちますが、資料や展示のノウハウを提供いただいています。YKKさんと魚津市の写真などを見ると、やはりちょっとうれしいもので、何か温かくなります。どうあろうと新川地域の2市2町の中で、いろいろな情報交換をしながら強く結び付いていただきたいと思います。魚津にも、いつも明るい笑顔の市長が誕生しました。会頭も代わられたことですし、この機会を良しとして、いろいろ2市2町で情報交換と提携をうまく取っていただきたいと思います。よろしくお願いします。

【中西委員】

- ・ トヨックスの中西です。今回、県の新総合計画の策定について資料を頂き、読ませていただきましたが、本当にすごく大事なことがしっかり網羅されている内容でした。こうしたものが実行計画に落とされて、10年スパンでKPIやPDCAを回しながらしっかりやられるということですので、ぜひ実現できたら素晴らしいと感じました。実際に新川地区の中に落とし込むに当たり、僕もあまり詳しい知識がないので、自分の企業経営の中から少し意見というか、お願いを申し上げます。
- ・ 私の方では、企業経営の中で「活力とやま」の部分が一番、われわれ企業として頑張らなくてはいけないのではないかと感じました。特に「グローバル競争を勝ち抜く力強い産業の育成と雇用の確保」の中で、先ほどもありましたように、今は人材確保が大変難しい時期に来ています。県の方でもIターン、Uターン、新卒の学生さん、今年あたりは中途採用の方などいろいろな方をご紹介いただき、すごく効果が出てきているという感じはします。ただ、そういう機会を頂くのですが、最終的に企業の努力としては、環境整備をしないとなかなか人に入っていただけないことが、中小企業の場合は多いのではないかと思います。

私どもの会社の中でも今、社員の若い層と中年の層、高齢者層の三つの層に分けていろいろな意見を聞くのですが、これから働き方改革で何を変えなければいけないかという中で、やはり出てくる意見は、もちろん所得が一番多いのですが、休日、定年延長、これからの生涯はどうなるのかという不安や、あとは介護です。やはり会社もだいぶ年を取ってきた感じがしますが、中小企業としてそういった対策をしっかりと取って、大企業から見たらまだまだ遅れていますので、そういった整備をしっかりとしていきたいと思えます。それが人材確保の中で、県から出していただいた施策をわれわれがしっかりと受け止めるという意味でも、やっていかなければいけない課題かと思っています。そういった意味で、いろいろな施策があると思いますが、それをぜひ県の施策と併せて活用していきたいと思えます。
- ・ あと、グローバルな競争を勝ち抜くことについては、日本人のグローバル化も一つ大事なのですが、海外から来てもらった人たちが日本の中で働ける環境をつくることにも少しチャレンジしています。ベトナム人や中国人に何人か入ってもらい、どちらかといえば量よりも質の方を求めています。質を上げるためには受け入れ側の質を上げなければいけません。そういう意味で、両方がバランスよく対応できるようにしていきたいと思っています。
- ・ 最後に、私どもは環境事業で輻射空調というものをやっています。石井知事はいろいろな良い形で情報発信や支援をしていただきました。ただ、中小企業で新しい事業を興すには、どうしても技術開発が先行してしまい、販路、商売、ビジネススペースを考えたときには普及させることなどに相当いろいろな力や時間がかかってしまいます。そういった意味では、スピードあるいろいろな公的な支援などがあるとすごくいいと思えます。また、どのようにそういうものをご相談したらいいのかという機会があればすごくありがたいと思っています。今も決して悪いわけではないのですが、われわれの体力に合ったような支援を頂ける形であれば、さらにいいと思っています。以上3点、ご相談です。

【水白委員】

- ・ まず最初に、知事におわびしなければなりません。4月に富山湾岸サイクリング大会に来ていただき、走っていただきまして、ゴールされた後、バイのすまし汁を召し上がっていただきました。ところが、実はあまりおいしくありませんでした。というのは、到着が遅かったので、だいぶ煮詰まってしまうまして、全くおいしくありませんでした。片付けのときに私も味見をして、本当に血の気が引く思いをしました。本当に私どもの失敗で、誠に申し訳ありません。新川地域のイメージを悪くしてしまいました。私の母親が作るバイのすまし汁はああいうものではなくて、大変おいしいものですので、またいつか機会があれば召し上がっていただきたいと思います。
- ・ 計画の骨子案の資料を事前に送付していただいたので見ましたら、その中に「高志」という表現を用いている箇所がありました。高い志というものは大きな志に通じます。大きな志というと、もちろん新川地域には大変関係がある北海道の例のアンビシャスです。この計画は大変整っていて、過不足ない大変いい仕上がりなので、そのせいでかえってアンビシャスなイメージが全くありません。

例えば、魚津の村椿市長は富山労災病院に産科・婦人科の創設、またそれに隣接する子育て支援の施設に取り組んでおられますが、本当に大変アンビシャスな取組みをされています。せっかくそのような取組みがあっても、例えば交通事故で幼い命がなくなるということがあります。新川地域は交通事故が大変少なくて安全・安心な地域ではありますが、例えばこの計画書を見ますと、交通安全のことは大抵、犯罪と交通安全の二つがセットで、あまり重要視されていないようにも見受けられます。私が思うに、アンビシャスな安全対策として、例えば石井知事が「春・秋の交通安全週間をやめた」とおっしゃっていただければ、県内が騒然として、かえって交通安全の意識が盛り上がるのではないかと思うくらいです。そのように、例えば未成年の交通事故死をゼロにするという本当にアンビシャスな計画を盛り込めば、このように大変整った骨子案にもかえって県民が注目して、個々の具体的な施策に形を変えたときに、また力が入るのではないかと思った次第です。

【吉田委員長】

- ・ ありがとうございます。ここまででほぼ半数の皆さんからご意見を頂きましたので、ここで知事から、ここまでのご意見に対するコメントをお願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

【石井知事】

- ・ 大変貴重なご意見、それぞれ大変ありがたいと思います。大愛委員は広域観光にも努力されているということで、またこのことについては、おっしゃるように、せっかく10年後を展望した計画ですから、また各論も含めてご相談していきたいと思います。
- ・ 川端委員がおっしゃったように、高齢化が進んで買い物難民の問題、買い物に行く身近な商店街の復活がなかなか難しいといったお話がありました。かなり各論になりますが、もう商店街がほとんどなくなってしまっている。いわゆる買い物難民のような県内

の幾つかの地域では、民間のスーパーやそれに近い業態の方で意欲のある方に少し補助金なども出して、車で巡回してもらう仕組みを既にしています。例えばそういったことを各市町とも相談しなければいけません、新川地区でも考えられるのではないかと思います。

- もう一つは、扇原委員のお話とも関連しますが、残念ながら商店街で後継者がいなくて廃業するケースが随分増えてきています。これは全国的な傾向ですが、同時に改めて日本の産業構造というか、いろいろな分野別の産業を欧米先進国などの産業と比較すると、例えば製造業、ものづくりは何だかんだ言いながら、アメリカとの間で第4次産業革命にやや乗り遅れて少し差が付いていますが、まだ健闘しています。ただ、小売や卸売、一般のサービス業は、改めて調べてみると、例えばアメリカに比べると労働生産性がもう半分ぐらいで、ものによっては3割ぐらいです。これはもちろん商慣習の違いや消費者がどういうサービスを求めているかということとの関連で、対価のリターンを考えると少し消費者の要求水準が高過ぎるのかもしれませんが、そういったことも含めて、いかにこういう小売、卸売、サービス業を、一気にではできませんが、労働生産性を高めて持続可能にするか。それを行政がしっかり支える仕組みをどうするか。これは国全体の問題でもあるので、経済産業省には立派な官僚がたくさんいるのだから、もう少しそういうところに光を当てて、もちろん製造業も情報産業も大変なのですが、そういうことを投げ掛けていまして、そうした点については私もよく勉強していきたいと思います。
- 大井委員がおっしゃった健康寿命日本一とか、そういう具体的な幾つかの政策があまりアンビシャスではないというご批判も頂きましたが、健康寿命日本一などについて、この間残念ながらお亡くなりになりました日野原先生などにお聞きしますと、大事なやはり一つは適度な運動、もう一つはバランスの取れた食事です。適度な運動の方は、ウォーキング大会などいろいろなことをやって、私自身もなるべく県民の皆さんと歩くことをよくやっています。

食生活の改善では、調べてみると富山県の方は塩分を取り過ぎの方が多く、野菜の摂取量が少ないことが分かりました。これは総論だけ言っても駄目で、いろいろ調査していくと、塩分は男性も女性もせめて1日あと2g減らしてほしいということです。一例を挙げると、例えば富山県人のカップ麺の消費量は全国トップクラスですが、あのカップ麺の汁まで全部飲むと、塩分が1食6~7g含まれています。女性の1日の目標食塩摂取量は7gなので、カップ麺一つを汁まで飲んでしまうと、それ以上塩分を取ってはいけないことになります。そういった具体的な例を示しながら、皆さんに健康に留意してもらいます。野菜だったらもう1皿食べましょうというPRもしています。

それから、かなり重症で、このままいくと糖尿病になる恐れがある方は、健康合宿というものを3年前から始めています。若干の参加費が要りますが、これに参加してもらうと結果として体重が何キロか減ったという人がかなり出てきています。要するに、あまり総論だけ言っても駄目ですから、かなり各論を実は地道にやっているのですが、まだまだご存じない。もちろんもっとPRしなければいけません、相当していてもまだまだ浸透していないので、また努力していきたいと思います。

- 扇原委員がおっしゃった事業承継や農商工連携は大事なことから、商店街のプロフェッショナル人材、後継者育成事業や農商工連携は大事なテーマとしてやっていき

と思います。同時に、農業も労働生産性をしっかり上げなければいけません。砺波のチューリップがなぜオランダのチューリップに負けるのか。最初は私もももどうしても気が付きませんでした。勉強して見るとやはり労働生産性が全く違うのです。オランダはハイテク農業をやっています。日本はそれにはるかに及ばないということがよく分かりましたので、例えばチューリップは国にも話をし、省力化、ロボット化をしていく努力をしています。

- その他、アイティオの伊東委員から、稼働率の低いものは個々の企業では買いつらいのでと。後でどなたかがおっしゃいましたが、新川地区でも例えば 3D プリンターなどを安価に借りられるような仕組みができないかということではないかと思います。ご承知のように、高岡の工業技術センターのそばに、ものづくり研究開発センターというものを出しています。これは非常に先端的な設備がそろっていて、大体この後で追加するものを入れると今は 45、今度は 63 になるのですが、これを県内企業で 250 社ぐらいに使っていただいています。想像以上だったのは東京・大阪・名古屋の本社の方が「こんないい機械がこんなに安く借りられるのか」と言って、しょっちゅう来て、190 社以上借りているのです。ですから、ちょっと距離があって申し訳ないのですが、なるべくものづくり研究開発センターなどをうまく使っていただきたいと思います。しかし、もちろんいろいろなご事情があると思いますから、またそうした提案をお聞かせいただければと思います。
- それから、家族を連れて行きたくなるような教育環境をしっかり整備してほしいというのは、これからのテーマだと思います。吉田委員長さんを前にして何ですが、例えば YKK さんがせっかく本社機能の一部を移転されて、社員ベースでその部分だけでも確か 230 人いらしたと思うのですが、その家族の方がみんな黒部や魚津に住んでいるかという、必ずしもそうではありません。そういう理由の中にいろいろあるのだと思います。ですから、こういった点は今日、市長さん方もおられますから、市町村長さんとも相談しながら、例えば東京や大都市から来た方が新川の会社に勤めたときに、そばに大変立派な高等学校や中学校、小学校などがあるから、子どもをここで育てようというふうにうまくつなげられるように考えていかなければならないと思っています。
- 大橋委員から幾つかありましたが、いずれにしてもスマホでの発信や公共交通のつながりが悪いという課題がかなりありますので、これは別途、研究会をスタートさせて、全国レベルの有識者も入れて各論をやっています。これからも努力しますが、具体的なご意見をまた聞かせていただきたいと思います。また、包蔵水力、地熱エネルギーはおっしゃるとおりで、小水力発電は今、全国で 1 番だと思いますし、地熱も立山山麓で始めましたが、またいろいろ教えていただきたいと思います。
- 千田委員から過分なお言葉を頂き、ありがとうございます。女性の知恵やパワーを活かすことがすごく大事な時代になっていると思いますから、女性の U ターンにも今生懸命力を入れています。移住についても女性の皆さんにもっと来てもらうように。おかげで富山県では 20~24 歳の数字を取りますと、ついこの間まで男性もマイナスだったのですが、この 4 年ぐらい前からプラス 30 人、プラス 100 人とだんだん増えていて、男性はむしろ入ってくる方が多くなっているのです。しかし、女性は相変わらずマイナスです。ひと頃 700 人ぐらいだったのが、今ようやく減って 500 人ぐらいのマイナスです。

女性にとって必ずしも富山県が魅力的に映らないとすれば、それはどうしてなのか。これはまさに総論だけでなく、各論をやらなければいけないということでやっています。また、今度の働き方改革についても、そういう視点から女性の活躍も含めてやっつけていかなければいけないと思います。同友会もそういう問題意識を持っていただいていることは大変ありがたいと思います。

- それから、バイのすまし汁は、そんなに気にされなくても大変おいしかったと思います。なるべくアンビシャスな計画というのは、そのようにしたいと思います。確かにこうした総合計画は、いろいろな分野のテーマをバランスよく、落ちがないようにしますので、大変整った感じになる代わりに、何となく全ての分野でいいことが書いてあって、印象が薄くなることもあるかもしれません。ですから、例えば健康寿命日本一とか、幾つかのところで若干突出した表現にしているのですが、これはまさにこれから皆さまのご意見を伺って、どういう総合計画にするのか、しっかりやっていきたいと思っています。
- それから、伊東委員の他、中西委員もおっしゃっていましたが、人材確保です。これは去年までもそうでしたが、今度新たに「地域活性化雇用創造プロジェクト」というものを始めました。これは厚生労働省の採択も頂いて、今年度が初年度の3年間、総事業費が9.8億円です。そのうち国から8割以上の補助金をもらうことになっています。新分野進出などをしたいときに高度専門的な人材が欲しいけれども、立ち上がりの経費が大変だというときに、半年分の人件費を一般の中小企業なら8割、それよりもう少し大きい中堅企業なら5割まで補助金を出すというものです。実額でいうと1人上限200万円で、1社2人までです。それ以外の一般的なものづくり人材についても、例えば訓練付きで正社員として雇用するのが前提ですが、新分野等に進出することに伴って、例えば訓練付きで半年訓練した後、正社員にする場合、1人月額28万円まで半年間、1社5名まで8割の補助金を出すという制度を作っています。これは国の採択を受けましたから、ぜひこういう制度を活用していただきたいと思っています。

【吉田委員長】

- ありがとうございます。それでは引き続き、高本委員からお願いします。

【高本委員】

- この資料を読みまして、大変素晴らしいと思っています。10年後はもっと素晴らしい県になっているのかなと思っていますが、未来に向かって私は農業の立場と美しい農村について、提案してみたいと思います。

美しい農村は、ヨーロッパなどでは観光になっています。私は黒部市のまちづくりや県からも、ヨーロッパの6カ国に行かせていただきました。そこでいつも感じるのは、美しい農村が観光になっているということです。ぜひ新川の10年後に向かってお願いしたいのは、私たちが住んでいる町や村の外壁です。人も町も見られることによってドレスアップするという言葉をヨーロッパで学んできました。ヨーロッパでは強制的ではなく、なるべくそうしましょうという考えの下に、外壁が大体白になっています。世界の国々からヨーロッパに来るのは、あのように美しい農村、外見だからだと私は思っていますので、できれば外壁が白になればいいと思っています。皆さんも自分たちの村や

町を見ていただくと、外壁はそれぞればらばらな色で、汚いと言ったら怒られますが、汚く見えると思うので、美しい新川、美しい富山県をつくってあげれば、「このような富山県に住みたい」とみんな思うのではないかと思います。

まさに県が奨励している「富富富（ふふふ）」を今日田んぼで見てきましたら、穂ばらみ期を迎えて、稲穂がぼんぼんになっていました。まさに美しい農村にこれからなっていくのだと思っています。難しいかもしれませんが、できればなるべくそのように進めていったらいいのではないかと思います。

- それと、子育てについてです。この資料の中にもたくさんいいことが書いてありますが、ふと思うのは、子どものときから郷土愛、ふるさと愛を教えることが、自分の生まれた村や町を大事にし、ふるさとに帰ってくるという意味で、男の人ならガールフレンドを連れて自分のふるさとに来るとか、そういう郷土愛、ふるさと愛の教育も、しっかりとしていってくださればいいと思います。

【松野委員】

- くろべ漁協女性部の松野です。漁業の立場から少し言わせていただきます。先日、女性部の総会があったのですが、本当に水産業の女性部は大変高齢化となって、だんだん少なくなってきています。それで、一番大きい氷見と魚津市が抜けてしまって、ここの女性部は泊、入善、黒部、滑川と新湊になってしまいました。それで、今後どうなっていくのかすごく心配な面もあるのですが、心配なことばかり言っても駄目です。前に吉田会長が「有言実行。何か自分たちでやれることはやってください」ということなので、私のちょっとした意見としては、地産地消で魚を使って、何か食べ物を広めることをやってみたらどうかと思います。黒部はヒラメがブランドになって、魚津もいろいろ頑張っておられますが、黒部はヒラメの新しい食べ方として、冬はしゃぶしゃぶにしていますが、そういったものも少しずつ広めていきたいと思っています。

食品に関しては、生地の水だんごです。これを一年中食べられるようにしようということで、魚津に取られたような感じで少し恥ずかしいのですが、今は富山のCiCの方に行ったら「魚津名産水だんご」となっていて、こちらとしてはとても残念なのですが、やはりそういったことを言っている立場ではないので、水だんごを全国的にいろいろな食べ方で知っていただければいいかと思います。それで最近、水だんごソフトというものをやりました。ソフトに水だんごを入れるだけなのですが、観光客にとっても人気で、よかったなと思っています。

- もう1点ですが、いろいろなところで空き家が大変多くなっていると思います。うちの近くでもたくさん空き家になっているのですが、変な話、空き家の登録が1軒だけということなので、なぜそのように1軒だけなのだろうと思っています。それで、県であれ市であれ、空き家をきれいにして、他の県の方などに貸し出して、それが良ければ富山県に住んでいただくという対策などももう少し考えていただければと思っています。

【村井委員】

- 富山地方鉄道の村井です。当社は、言い方は変ですが二面性がありまして、一つは二次交通、いわゆる新幹線の二次交通としての観光の面です。それから、実は地域の方に

とっては一次交通なわけです。二次交通の観光の面では、先ほど大橋委員が言われたとおり、やはりこれからは今までスポットの当たらなかった面、大きくは富山ですと冬、それから夜間です。これをどう売り込んでいくかということが、これからの勝負になるのかなとずっと思っています。

そんな中で、県と黒部市さんのご協力、ご支援も頂きまして、宇奈月温泉駅にエレベーターを付けることになりました。まもなく工事が始まるわけですが、そのようなことで一つずつでも、お客さんが来やすいような場所になっていかないかと思っています。

- ・ もう1点は一次交通、いわゆる地元の方へということでは、8月1日から、免許返納された方に電車・バスの運賃を半額にする制度の取組みを当社で始めます。これが一つ、高齢の方が家に閉じこもらなくなるきっかけになってくれればと思っています。当然、商売ですから、多少なりともお金を頂くわけですが、乗られる方にはやはり半額負担ということもありますから、そういうところをうまく行政で補助していただいたりすると、もっと画期的、効果的に利用していただけるかと思っています。

いずれにせよ、鉄道はまだまだ収支が厳しいところですので、どうやって乗っていただけるか、どうやって活用していただけるか、皆さんのお知恵を借りながらいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【松井委員】

- ・ 先ほど知事さんからご答弁を頂いたところですが、改めてお願いしたいと思っています。健康寿命日本一とありますが、非常に素晴らしいタイトルだと思っています。今から5年前に、厚生労働省の資料だったと思いますが、全国健康寿命の順番を見ますと富山県は34、35番目だったかと思いますが、今日の新聞を見ても、十何番目ということで、非常に高くなっていて大変喜んでいました。この計画の中で、日本一はいいのですが、できればこの計画の10カ年あるいは5カ年の中で、例えば1歳延ばす、2歳延ばすという具体的な数値を挙げて取り組んでいただければいいと思っています。もちろん、先ほどの知事さんの答弁にもありましたが、健康寿命を延ばすためにはやはり、その人に合った運動、食生活、そして予防あるいは健康診断などいろいろあるわけですが、1歳延ばす、2歳延ばすことによって、介護保険料、医療保険費に非常にプラス面が出てくると思います。できればひとつ、この計画の中で具体的に1歳延ばす、2歳延ばすといった取組みをしっかりとやっていただいた方がいいのではないかと思いますので、よろしくお願いいたします。

【宮本委員】

- ・ 資料を見させていただきまして、10年後の県民の意識とニーズを見てみると、「誰もが住み慣れた地域で自立して生活できる社会が実現している」、「安定した老後の生活を送ることができる」、「仕事と子育てが両立しやすいなど、安心して子どもを生み育てることができる社会となり、少子化に歯止めがかかっている」の3点に関して見てみると、実現していると思われるのが10～20%と大変低く、今も10年後も変わりはないと思います。やはり子育て、教育、健康、福祉、そして人づくりが重要であることは変わらないことだと思います。ぜひ全ての子どもたちが高校生になるまで、授業料や給食、医療

費が無償化されることを実現していただきたいと思います。

- ・ 私は魚津ですが、村椿市長が労災病院の中に産科の施設を造られることは大賛成ですが、ただ産むだけではなく、その後です。子どもを産むということは病気でも何でもないの、本当に安心して魚津に住んでいてよかったと思えるような施設にさせていただきたいと思います。
- ・ そして、私の分野とは全く関係ありませんが、例えば私が旅行したいとか、どこかに行きたいと思うときは、やはりその町には花があり、緑がある所がとても魅力的なのです。黒部では四季桜の苗を各家庭に配って、四季桜の町並みをつくられるとだいたい前にお聞きしました。また、県西部の方では昔、私は富山県人ではありませんでしたから、砺波のチューリップ公園を見たときは本当にまだ田んぼの中にチューリップがある程度でしたが、この何十年で素晴らしい公園になりました。やはりそのように将来を見据えた町づくりが大事なのではないかと思います。

残念ながら魚津には、町の中にそういう所が全くありません。だからぜひ、子どもからお年寄りまで楽しく憩える場が欲しいと思います。魚津では、前の洗足短大のそばに個人的に花の森ガーデンを造っておられますが、やはり個人だけでやるのは大変です。だから、NPO 法人を立ち上げたり、行政と協力してそういうこともやっていけば、本当にもっと人を呼べる町になるのではないかと思います。高本さんがおっしゃっていましたが、本当に魅力ある町というのは、町並みなどにも関係があるのではないかと思います。

- ・ 私はミラージュホール・クルー運営副委員長という立場でここに出させていただいていますが、ミラージュホールでは毎年夏、全国の高校の吹奏楽部が来て素晴らしい演奏をしてくれています。それが今、高校生の吹奏楽部の方たちのステータスというか、文化ホールに行きたいということで皆さん頑張っているようなので、ぜひそれも続けて、若い人に魅力がある町になっていただきたいと思います。

私は来年で 25 年になる新川ムジーク・フラウエンの代表もしています。そこで会員のために、音楽公演の企画から運営まで全部やっているのですが、なかなか若い人たちがそういうものに参加しなくなっています。昔と違って、今の若い人たちは自分の好きなジャンルなら全国どこへでも出掛けていきますが、別に行きたくもない所に会費を払ってまで出たくないという感じですので、若い人たちをどうやって呼んだらいいのか、若い人たちに魅力的な活動ができないか、今とても迷っています。これは私からのお願いですが、何か良い案があれば教えていただきたいと思います。

【渡辺委員】

- ・ 富山県 PTA 連合会副会長の渡辺と申します。PTA の立場としてですが、先ほど朝日町の笹原町長が言われましたが、10 年後の見通しとして取り組むべき政策としてはやはり、高校再編の話は欠かせないことではないかと思っています。私は 2~3 カ所ですべて県教育委員会の説明会を聞きましたが、やはり教育関係の方の意見が多くて、こういった会に出られる各界の偉い方の意見も実際に聞いてみたいと思っています。
- ・ それと、生徒の人口はどんどん減ってきています。10 年、20 年前から比べるとほぼ半分近く減っていると聞いています。これはもちろん日本や富山県の人口の減少に伴って

のことだと思えます。これも、先ほど岡田委員が言っておられましたが、もう少し子どもを産み育てやすい環境が必要です。一生懸命産んでも、どうしても人口の偏りで、全部東京や大阪に行ってもらったりしても困りますので、その後の U ターンや I ターン、先ほどから皆さんが言っておられるように、仕事のしやすい住みやすい環境をつくっていただければいいと思っています。

【堀内副委員長】

- ・ 時間も限られているので簡潔に言います。県の総合計画は今、策定中です。実は黒部市も今、来年度から 10 年間で計画期間とする第二次黒部市総合振興計画を策定しています。先ほど出がけに担当者に「県の総合計画と整合が取れているか」と聞くと、「文言的にはそうなっていますが、ほとんど意識していません」という答えでした。それが現実だろうと思っていますし、県と市町村の役割分担をもう少し分かりやすくした方がお互いに連携が取れるのではないかと考えておりますので、ぜひその辺をわれわれ市町村と詳細に役割分担を協議する場があればいいのではないかと思います。
- ・ それから、この新川地域というくくりですが、今までは県内 4 広域圏ということでのいろいろな分野を整理されてきましたが、その結果、あまりにも各分野、各地域がバランス良く発展することになって、少し細かくなり過ぎているのではないかと思います。例えば先ほどの教育の問題や観光の問題、公共交通の問題などについては、特に今、外国人観光者がこれだけ増えてきたら、新川、富山、高岡、砺波といってもほとんど分からないだろうと思いますので、富山県としてやはりメリハリをしっかりと作り、あまり地域バランスを考えない方が、県外や外国の方には分かりやすい。それは思い切ってそうすべきではないかと思っています。

医療圏もそうなのですが、四つの医療圏と言いながら、本当にそれがしっかりとした医療体制として役割、責任を果たしていけるかという点、あまりにもバランスよくなり過ぎると全体が弱くなってしまいうことも十分考えられます。もう少し四つの広域圏にこだわることなく、富山県としてどうするべきかということをしっかり考えていただければありがたいと思っています。

【村椿副委員長】

- ・ 魚津市長の村椿です。まず最初に、湾岸サイクリングのときのバイのすまし汁は、私は「うまい、うまい」と言って食べてしまいましたので、知事も「おいしい」と言ってもらったのですが、私は味覚がまだ発達していないのかなと。また今度、おいしいのをお願いします。
- ・ それから、水だんごですが、魚津の大野屋さんは河田屋さんを大変リスペクトしておりまして、展開していくときに必ずそういう紹介もしていて、しっかり新川地域の資源としてやっています。あと、花のある町もしっかり目指していきたいと思っています。
- ・ 今日の本題の地域の特性と課題というペーパーについては、前回と比べると特色をきめ細かく盛り込んでいただいているので、非常にありがたいと思っています。私が市長になってから子育てと教育と観光と言い続けてきたので、そういった視点で少しお話しすると、まず観光の話については、黒部市長ともよく話をしますが、このエリアとしてはや

はり黒部宇奈月温泉駅の利用をしっかりと増やすことが大事だろうと思います。そのときに、その地域だけで考えていてはしょうがないので、もう少し広い目で考えなければいけない。大切なのはそこからの二次交通なので、先ほど地鉄さんのお話がありましたが、あいの風、地鉄、バス、タクシーを含めて、どうやって黒部宇奈月温泉駅を活かした広域観光を組み立てるかということがとても大事だと思っています。そういった意味で、ぜひ県のプランにもそういった力点を置いていただいて、より大勢の関係者で10年後の交通圏というものを考えることを少し色濃くしてもらとうれしく思います。

- それから、2点目の教育ですが、魚津は13あった小学校を四つか五つに統合するというドラスティックな統合が進んでいます。単に学校の数が減っただけでは悔しいので、教育環境を充実させたいと思っていますが、なかなか難しいです。先生を単費で配置するのはなかなか難しいですし、処遇も違うのでなかなか難しいのですが、ぜひそういったことをやっていきたい。委員の皆さんの意見にもありましたが、この地域が特色のある教育をやる地域だと伝わっていけば、将来的には人を呼び込んで、そこに住む人を増やしていくことになると思いますので、ぜひそういうことをやっていきたい。具体的には今、ICT教育やプログラミング教育を新学習指導要領で打ち出していますが、なかなか財源が厳しいので、県に出してくれとは言いませんので、ぜひ国の方にそういったアプローチを一緒にやるというスタンスを取ってもらとうれしいと思っています。

【梅津オブザーバー（笹島委員代理）】

- 知事さんを目の前にするとどうしてもお願いという話になってしまうのですが、一つはまず、先ほど松井委員が言われていたように、総合計画については数値目標をぜひお願いしたいと思います。
- 先ほど、岡田委員から「入善町は子育てにやさしい」とありましたが、少し話をさせていただければと思います。人口減少はやむを得ない部分もありますが、町とすればこれをどうやってソフトランディングさせていくかということです。データによれば、2万5000人の人口が数十年後には1万4000人を割ってしまうというデータも出ています。これを何とか2万人に抑えたいということで、今やっているわけです。

まずは結婚、子育て、それと若者の定着です。若者の定着にはいろいろあるわけですが、平成28年からいろいろな施策をやってきた関係で、まず生まれる子どもが今、大体150人に落ち着いてきています。亡くなられる方が350人で、いわゆる自然減が200人です。平成27年ぐらいまでは社会動態、いわゆる転入転出の関係ですが、大体100～150名で、主に子どもたちの大学進学と捉えていたのですが、さまざまな施策をやってきたおかげで、平成28年にそれがマイナス10名になりました。

では何をやってきたかということ、3世代同居、あるいは親の家の近くに家を建てる場合には補助金を出しましょうと。もう一つは、これは国の施策で、若い方が結婚するとアパートの入居費用が非常にかかるということで、国の制度もいかなものかと思いますが、当初は2人合わせて年収300万円と。そんな人が結婚できるわけがないではないかということで今は360万円ぐらいまで上がってきていますが、それでも新しいアパートに住むのは非常に難しい。入善町では、町内に住んでいただけるなら、所得制限なしに支援しましょうと。ただし3年間以上は住んでいただきたいと。その辺がうまく出て

きているのかと思っています。特に近居、同居については年間 20 件以上の申請がありますので、そういったことが社会動態の変化に表れたのかと思っています。

また、健康寿命につきましては、長野県が減塩ということに取り組んでおられます。多分 30 年間ぐらいかかったのだと思いますが、今は長野県が健康寿命も含めてトップということです。私の記憶に間違いなければ、30 年ほど前は青森県と同等の最下位だったのですが、長野県が減塩運動をやられました。ところが、青森県は相変わらず、私も好きですが、しょっぱいみそ汁、しょっぱい漬物を食べているので、青森県が最下位になりました。この健康寿命、いわゆる減塩につきましても、減塩プロジェクトということでやらせていただきました。多分 30 年間ぐらいかかるのだらうと思っています。

- そこで、話は変わりますが、委員会の名簿を見てちょっとびっくりしたのは、特に入善町だけなのかかもしれませんが、農業をする人たちが一人も入っていません。高本さんはおられますが、新川地域においても農業はそれなりに、魚津ではリンゴなどがありますが、そういった生産者部門の方が一人も入っておられない。これはちょっとびっくりしました。来年 1 月にはもう大方の案ができてしまうので、できればこの委員会にすぐ入れるということは無理だらうと思いますので、そういった農業、いわゆる生産者の声を聞く場を設けていただけないかと思っています。
- これは入善町だけかもしれませんが、農業インフラ、用排水について更新時期がもうとっくに来ています。入善町の場合、7 割で農地の流動化が進んでいて、ほとんどが会社組織あるいは集落営農となっています。知事をお願いしたいのは、今の農業のインフラの更新につきましては、例えば土地改良事業であれば 50%の国の補助、10%の県の補助、11%の町の補助、残りは地元負担です。ところが、何が問題になるかということ、土地の所有者が今までは土地改良事業にお金を払ってきましたが、土地の所有者はもう農業をやっていないのが現実です。農業をやっていない者がなぜ負担金を払わなければいけないのかということが、今後の農業インフラの更新に当たっての大きな問題になるかと思っています。何回か国にも、そういった制度を見直してほしいと言ってきましたが、ただ 1 市町村のことを言ってもどうしようもない話で、知事の方から、農業インフラの更新時期が来ているということで、その辺の制度の見直し等を強く国に言っていただけないかなと。今、切実な問題の農業用排水路の更新については、多面的機能のものもありますが、それではもう全然進まないの、そういった農業インフラの更新についての制度を、国へ一度投げ掛けていただければと思います。よろしくお願いします。

【吉田委員長】

- ありがとうございます。これで出席の皆さん全員にお話を頂いたこととなります。そろそろ予定の時間がまいりましたので、委員の皆さまには感謝申し上げます。最後になりますが、知事に全体のコメントをもう一度お願いしたいと思います。

【石井知事】

- 高本委員がおっしゃったような、農村もなるべく日本の美しい田園風景など残していきたい。壁の色の問題はまたいろいろな地域によっていろいろな議論があると思いますが、また市町村ともご相談してまいりたいと思います。

- ・ ふるさと教育が大事だというのは全くおっしゃるとおりで、高志の国文学館などはまさにそういう考え方で作っているわけです。
- ・ 水産業の女性部の皆さんがだいぶ減っているというお話もありましたが、ちょっとこれはよく勉強させていただきたいと思います。
- ・ 地鉄の村井委員から交通の話が出ましたが、冬場対策はいろいろな面でだいぶ効果が出つつあります。先ほど申し上げたように、また市町村の皆さんと交通の話は別途検討する場も設けていますので、またいろいろなご意見を聞かせていただきたいと思いますし、お知恵も頂きたいと思います。
- ・ 健康寿命の話は何人かの方から出ました。だいぶ息の長い事業ですが、だんだん良くなっているかなと思いますので、努力してまいりましょう。
- ・ 高校生までの教育費をできればゼロにというお話もありました。これは国全体として考えなければいけない大きなテーマだと思います。今、政府・与党でもだいぶ議論を始めていますが、問題はその財源をどうするかということです。そこで「こども保険」などいろいろな議論がありますが、少しこういったことも含めて、よく勉強してまいりたいと思います。
- ・ 高校再編の話は先ほど申し上げたとおりです。
- ・ 市町村の総合計画との関係ですが、県の計画は基本的に県全体としてどう取り組むかということなのですが、同時に各地域ごとにどうなるのかということももう少し問題意識を持って、それなりの方向を示してほしいという意見を市町村長さんや県会議員さん、経済界の方も持っておられます。現計画でも地域別にはそう細かなことは書いていないのですが、ある程度の方向性は出しています。そうしたことかと思いますが、またご相談をしてまいります。
- ・ 先ほど、農業の代表が手薄ではないかというお話がありましたが、例えば青年委員会などにはJAの生産者の方が2名入っていたり、総合計画の全体の審議会にはJAの代表の方も入っておられるのですが、もう少しよく考えてみたいと思います。
- ・ 入善町は住めば3年間いろいろな助成をするということで、意欲的に取り組んでいらっしゃることにについては敬意を表したいと思います。
- ・ 農業施設が老朽化して、土地の所有者と農業をやっている方が分離しているというのはおっしゃるとおりで、この点については去年、一昨年あたりから県としても農水省にいろいろお話をしています。農水省もだいぶ問題意識を持ってき始めているので、今後とも市町村の皆さんと連携しながら、制度改善を働き掛けていきたいと思います。
- ・ 魚津市も、ICTや学校統合などいろいろ努力されていることについては、敬意を表したいと思います。まだまだ他にもあったかと思いますが、時間も押していますので、以上とさせていただきます。どうもありがとうございました。

【吉田委員長】

- ・ ありがとうございます。それでは、本日はこのあたりで会議を閉じさせていただきたいと思います。大変長時間にわたり、議事進行にご協力を頂きまして、ありがとうございました。